

5 整備方針策定に係る課題整理

5.1 上位既定計画の整理

(1) 宇治田原町第5次まちづくり総合計画(平成28年3月策定)

宇治田原町第5次まちづくり総合計画では、「人がつながる 未来につながる お茶のふるさと 宇治田原」をめざすまちの将来像に設定し、その実現に向けて4つのまちづくりの目標を掲げている。

末山及びくつわ池自然公園については、「便利で快適に過ごせるまち」の中の「豊かな自然との共生」で、自然環境を学ぶ機会や活動の場として提供することが掲げられている。

⇒末山及びくつわ池自然公園は宇治田原の**観光拠点、自然環境を学ぶ活動の場**

⇒子育て環境の充実、新名神高速道路宇治田原インターチェンジへのアクセス性の強化

<宇治田原町第5次まちづくり総合計画の概要>

名称(策定年)	宇治田原町第5次まちづくり総合計画(平成28年3月)	
計画期間	平成28年度から平成37年度の10か年	
めざすまちの将来像	メインコピー:人がつながる 未来につながる お茶のふるさと 宇治田原 サブコピー:やすらぎ・ぬくもり・ハートのまち	
まちづくりの目標と施策目標	まちづくりの目標	施策目標
	健やかに安心して暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・元気・健康づくりの推進 ・医療ネットワークと保険制度の推進 ・支え合い助け合う地域福祉の充実 ・いきいき生活できる高齢者福祉の充実 ・地域との共生をめざす障がい者福祉の充実 ・安全な暮らしの環境づくり ・地域での防災力の強化
	便利で快適に過ごせるまち	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略的な土地利用の推進 ・環のくらしの推進 ・豊かな自然との共生 ・交通・住まい環境の充実 ・安全な水の安定供給と環境にやさしい下水道整備の推進
	活気にあふれる交流のまち	<ul style="list-style-type: none"> ・交流・定住人口の増加によるまちの活性化 ・商工業の振興 ・農林業の活性化 ・就業環境の充実と消費生活の拡大
	子育てと学びを応援するまち	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て環境の充実 ・子どもたちの教育の充実 ・ライフスタイルに応じた生涯学習・スポーツの推進 ・郷土愛の醸成と地域文化の継承 ・人権と平和を尊重する学びの環境づくり
土地利用構想	<ul style="list-style-type: none"> ・新名神高速道路宇治田原インターチェンジへのアクセス性の強化。 ・「末山及びくつわ池自然公園」「猿丸神社と禅定寺」「永谷宗円生家」を観光・交流ゾーンに位置づけ、広域的な交流の推進を図る。 	

(2) 宇治田原町まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成 28 年3月策定)

宇治田原町まち・ひと・しごと創生総合戦略では、周辺地域よりも充実した子育て施策を宇治田原町の強みと捉えており、子育て世代をターゲットとした定住促進をめざしている。

⇒**子育て世代を中心にターゲットとして設定**

<宇治田原町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要>

名称(策定年)	宇治田原 まち・ひと・しごと創生総合戦略(平成 28 年3月)	
計画期間	平成 27(2015)年度から平成 31(2019)年度までの5年間	
課題解決の方向性	<p>【人口の将来展望を踏まえた課題解決の方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代を主なターゲットとし、出産・子育て施策の充実や町内外に向けたシティ(タウン)プロモーションの強化を行う。 ・安心して住みよいまちの実現により、あらゆる世代の移住・定住に繋げるため、具体的施策を展開する。 	
施策の展開イメージ	<p>基本目標1 まちに若者を呼びこみ、働く場を確保する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○道路基盤の整備と雇用環境の充実 ○宇治田原のロケーションを踏まえたにぎわいづくり ○町内で働く人には、町内で住んでもらう
	<p>基本目標2 若い世代の希望をかなえ、元気なうじたわらっ子を育む</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○結婚、妊娠、出産までの切れ目ない支援の充実 ○子育ての負担軽減に関する支援の充実 ○うじたわらっ子の教育環境の充実や郷土愛醸成の取り組みの充実 ○子育て世代どうしの交流や家族が気軽に集える場づくり
	<p>基本目標3 地域で見守り、安心して暮らしやすいまちをつくる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○安心・安全な暮らしの確保 ○便利な生活環境と移動しやすい環境の形成

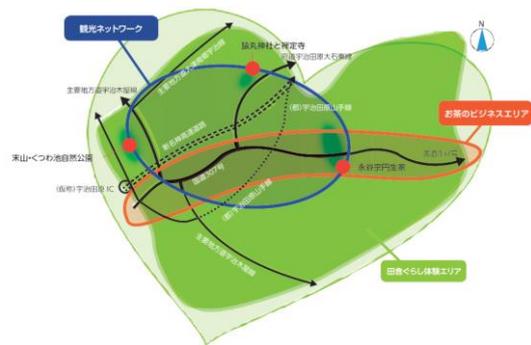
(3) 宇治田原町観光振興計画(平成 28 年3月策定)

宇治田原町観光振興計画では、「末山及びくつわ池自然公園」「猿丸神社と禅定寺」「永谷宗円生家」を来訪者の多い拠点として位置付け、それらをネットワーク化させ、拡大、複層化することで、宇治田原町の面としての魅力づくりをめざしている。

⇒宇治田原の自然を感じてもらおう観光拠点として整備

<宇治田原町観光振興計画の概要>

名称(策定年)	宇治田原町観光振興計画～観光によるまちづくり～(平成 28 年3月)	
計画期間	平成 28 年度から平成 37 年度の 10 か年	
観光振興計画の方針	基本方針	テーマ
	① 観光推進力づくり	おもてなしマインドの発揮!
	② 観光魅力の創出	お茶に触れる! 里山・田舎・歴史文化を体験する
	③ 観光の基盤整備	体験・時間・空間の環境を整える
	④ 観光情報発信	イメージづくりと情報発信の強化
エリア別の方向性	<p>【お茶のビジネスエリア】</p> <p>・東西に走る国道 307 号沿いや、(仮称)宇治田原インターチェンジ付近は、交通量も多く、物販・飲食施設もあることから、来訪者の消費活動の中心となるため、さらなる施設の整備、特産品や名物メニューの品揃えの充実等が望まれる。また、観光推進のための拠点の設置にもふさわしいエリア。</p> <p>【田舎ぐらし体験エリア】</p> <p>・幹線道路から入り込む各集落をお茶にふれ、自然や水、空気を感じる里山・田舎ぐらしが体験できるエリアとして、プログラム開発や滞在を目的とした施設を整備検討。</p> <p>【観光ネットワーク】</p> <p>・来訪者が多い資源をつなぎ、ネットワーク化することで、来訪者の町内での回遊性を高める。</p>	



(4) 新名神開通、インターチェンジ新設によるアクセス性の向上

平成 35 年に新名神高速道路が全線開通し、(仮称)宇治田原インターチェンジが設置されることから、宇治田原町へのアクセスが飛躍的に向上し、来訪者の大幅な増加が期待できる。

⇒広域からのアクセスによる**利用者の増加**への対応

5.2 末山及びくつわ池自然公園の利用実態

(1) 近年の利用者数の推移

利用者数は平成 20 年度で下げ止まり、以降は年々増加傾向にある。一方、テニスコート、バンガローは下げ止まったまま横ばいの状況。

⇒ **多様な利用者ニーズ**に対応した施設整備、サービスの提供が必要

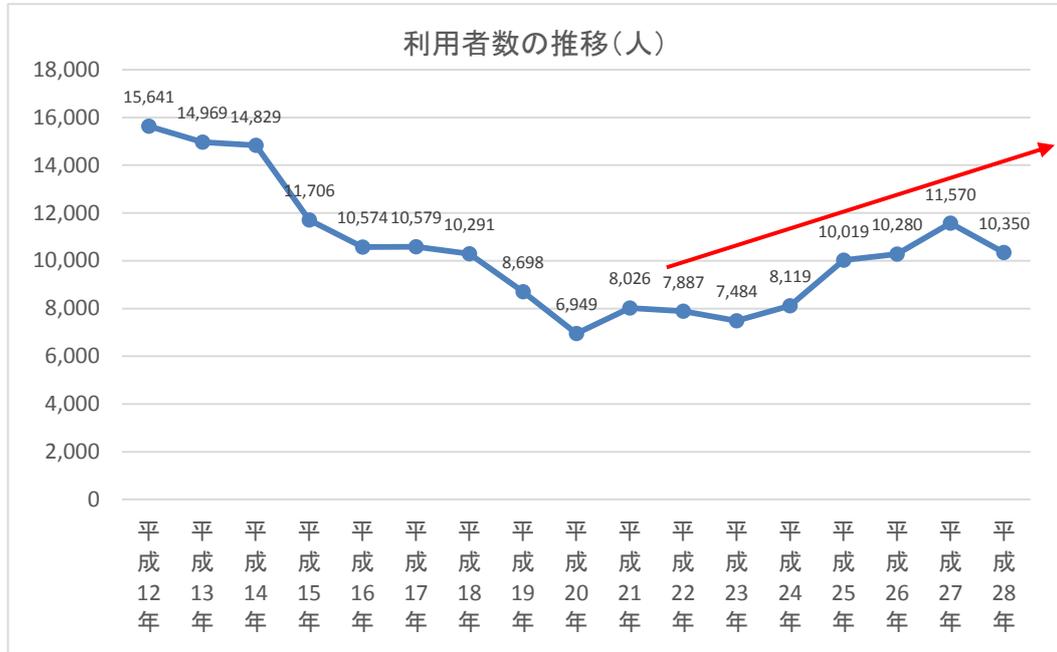


図 利用者数の推移

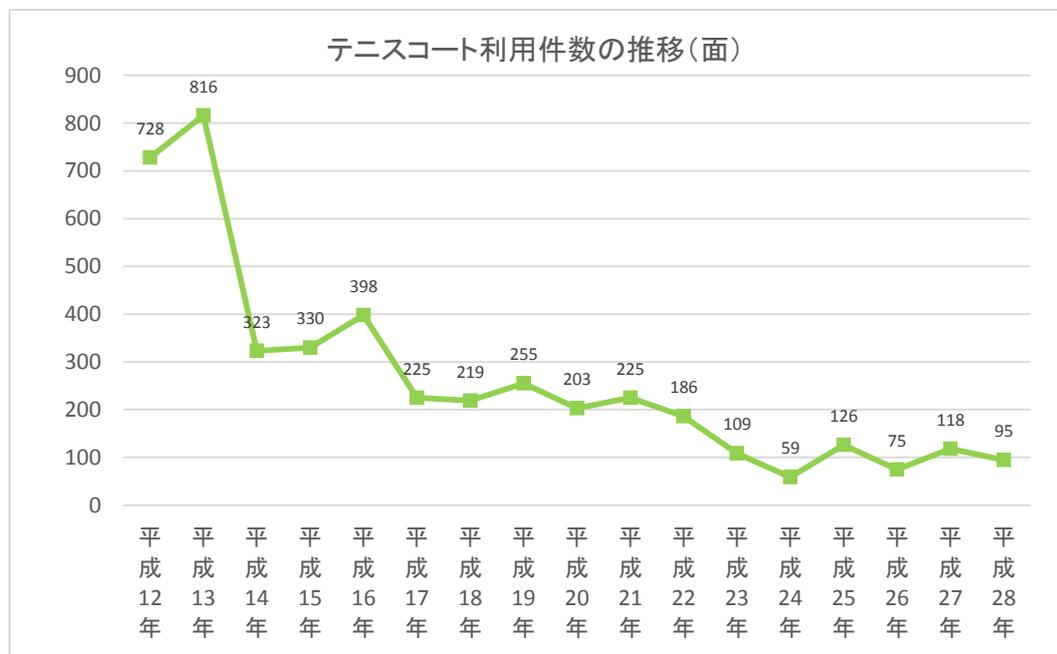


図 テニスコート利用件数の推移

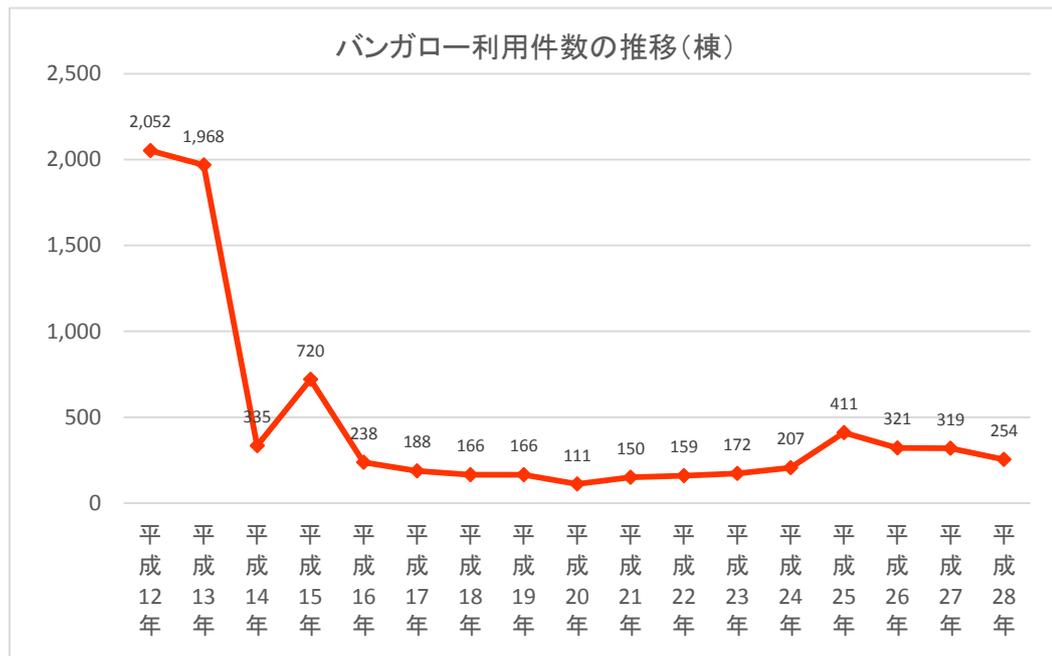


図 バンガロー利用件数の推移

(2) 年間の利用状況

入園者数は5月が最も多く続いて9月、10月が多い一方12月～3月の冬季は著しく低下する。

⇒年間を通じた施設利用を促す施設整備、サービスの提供が必要

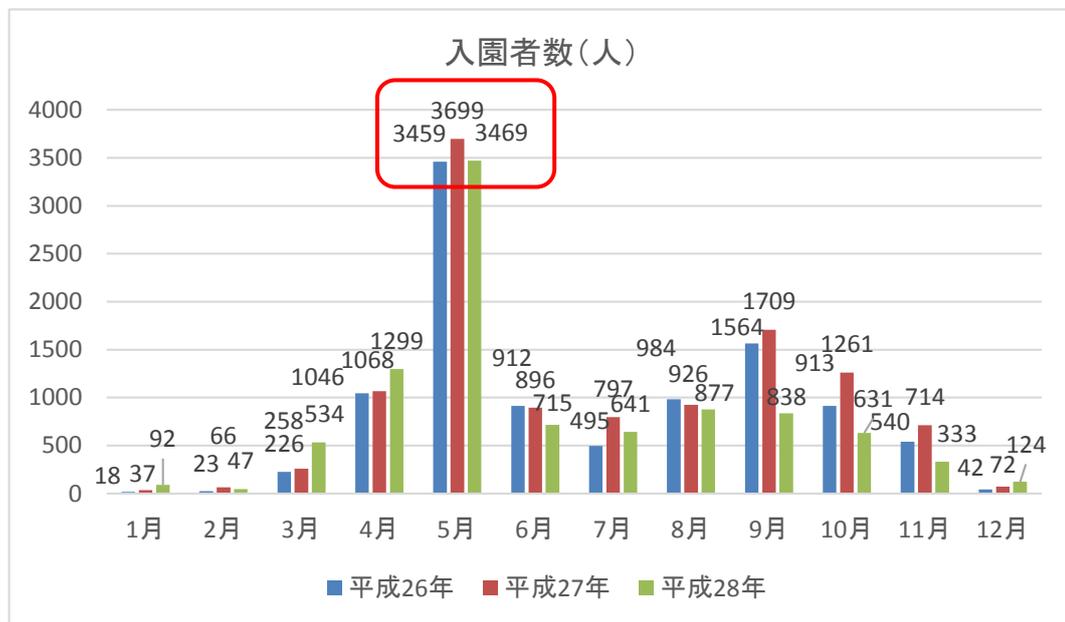


図 目的別年度比較入園者数

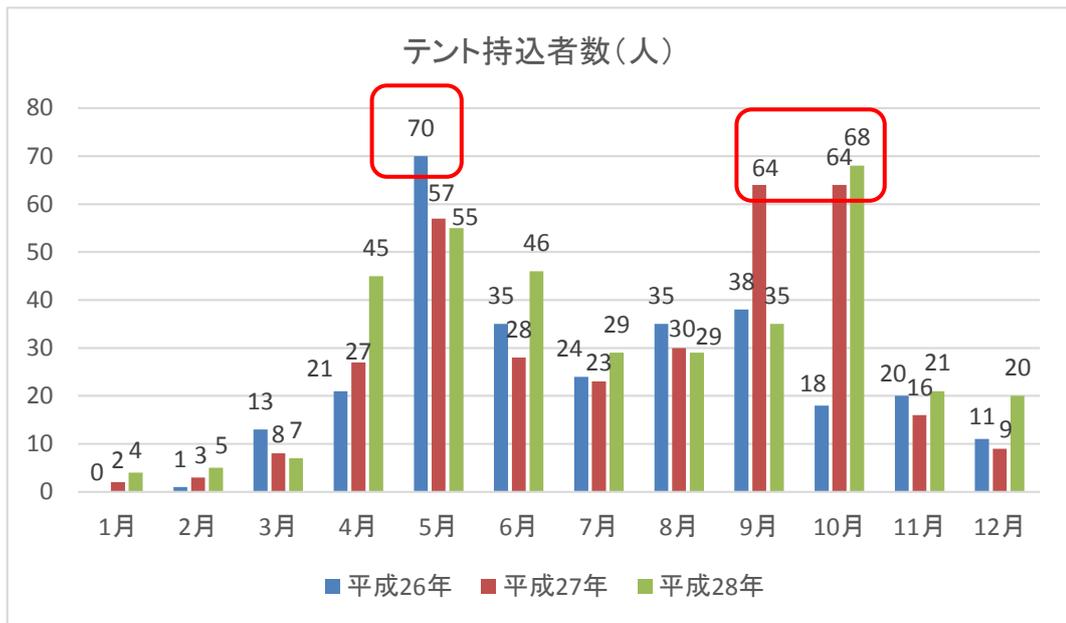


図 目的別年度比較テント持込者数

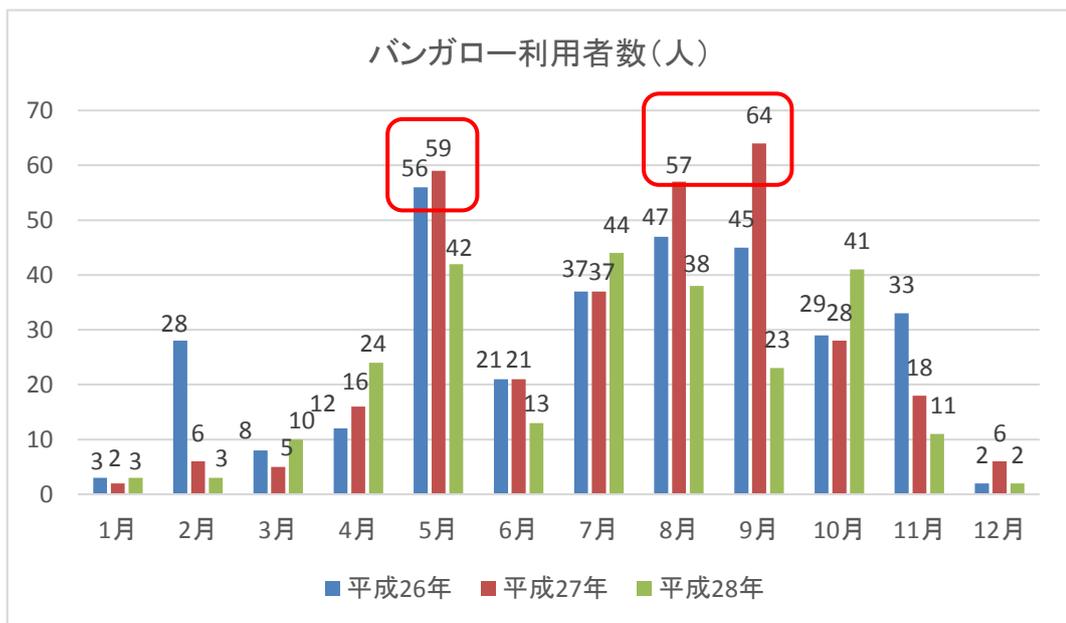


図 目的別年度比較バンガロー利用者数

5.3 末山及びくつわ池自然公園の現状と課題

現地踏査及び公園現場管理人へのヒアリングにより、本公園の課題抽出を行った。

(1) 公園全体

a) 施設の老朽化による魅力低下への対応

公園内のバンガローやキャンプ場内の遊具、各森林コース内の休憩施設等、経年変化による魅力の低下に加え、施設使用時の安全性を確保する視点からも、更新を検討する必要がある。

また、電気や給排水設備関連施設等も更新の時期を迎えており、利用者の快適性を確保するためにも更新を検討する必要がある。

b) 園内サインの充実

公園内には手作りの矢羽タイプ誘導サインが設置されている。現在自分のいる位置関係や、見どころ、園内に生息する動植物の解説板など本公園を楽しむための情報提供を充実する必要がある。

c) 自然観察ポイントの創出

公園内に存在する特徴的な植物や地形、風景が望める場所を魅力的な観察ポイントとして設定する必要がある。

(2) 散策路・展望台

a) 散策路の崩壊部の補修

来園者が安全に周遊できる環境作りを行う必要がある。なお散策路の補修に際し、自然を感じることができる作りすぎない整備とする必要がある。

b) 展望台周辺の樹木整理による眺望確保

展望台として設定された広場はあるが、周辺の既存樹木の繁茂により視界を遮られているため、必要に応じて樹木を剪定、整理し展望機能を確保する必要がある。

(3) 広場・キャンプ場

a) 多客時に対応した規模の確保

現状も多客時にはオートキャンプ場はスペースが足りない状況であり、公園内でオートキャンプ場の用地を追加で確保する必要がある。

また、現状では、公園内にはまとまった平地が少なく、多様な活動を中心に活用できる広場がない。

b) 広場、キャンプ場の雨水排水対策・芝生化

未舗装の広場内は排水施設が少なく、雨天時直後は水溜りができるとともに、車両で締め固められた広場では水が浸透しにくいいため対策が必要である。

(4) 園路・駐車場

a) 多客時の駐車場スペースの確保

現状、ハイシーズンの一時期には駐車場が満杯になり入園をお断りする期間もあるため、今後のイベント活用も想定すると、フレキシブルに活用できる多目的な駐車スペースの確保が必要である。

b) 管理用園路の舗装化・排水施設設置

管理用園路は一部未舗装区間がある。通路上は排水施設が少ないため雨天時には歩行や車両通行に影響が出るため対策が必要である。

c) 車両と歩行者の動線錯綜への対応

車両が通る通路沿いに設定された森林コース区間は、歩行者と車両の動線が錯綜し、多客時には接触事故も想定されるため、歩行者、車両運転者共に注意喚起が必要である。

(5) 園内建物

a) バンガロー等の宿泊施設の機能向上

老朽化しているバンガローは、安全性に配慮し、現状の構造確認を行ったうえで、必要に応じて補強改修、更新を行うことが必要である。なお、改修に際しては、里山景観にも馴染みながら誰もが泊まりたくなるような雰囲気づくりに配慮することが必要である。

また、現在、トイレや水場が別棟となっている。今後さらに利用者の快適性を高める場合は、バンガロー内の給排水および空調などの設備導入も視野に入れる必要がある。

b) 休憩施設(屋根等)の補修・追加

園内に設置されている休憩施設は、汚れが目立ち利用されていないものもある。適宜清掃、補修を行い来園者の利用促進を図る必要がある。

c) 自然公園にふさわしい景観の整理

釣池の事務所として利用されている建物や、その周辺の倉庫群など、公園敷地内の施設として景観面、機能面を考慮した施設の配置見直しを行う必要がある。

d) 多客時の宿泊施設の確保

多客時の利用人数に対応できないバンガロー等の宿泊施設について、キャンプ場と合わせて総合的に対策を検討する必要がある。

e) トイレ、給排水設備等の改修

来園者のニーズに対応しトイレの洋式化を進める必要がある。またトイレの浄化槽や給水施設には、開園後の経年変化で更新の時期を迎えている施設もあるため、公園整備と整合のとれた施設形態に改修する必要がある。

(6) 現地踏査時の課題位置図

広場の芝生化(他広場も同様)
雑草繁茂

展望台の樹木の繁茂(各広場周辺共通)
実生木、中木の繁茂による視界障害



休憩施設(屋根等)の補修・追加(全域共通)



東屋の
老朽化、汚れ

トイレ改修(他トイレ共通)
老朽化による損傷、洋式化

多客時の宿泊施設確保・バンガロー・炊事施設の老朽化(全域共通)

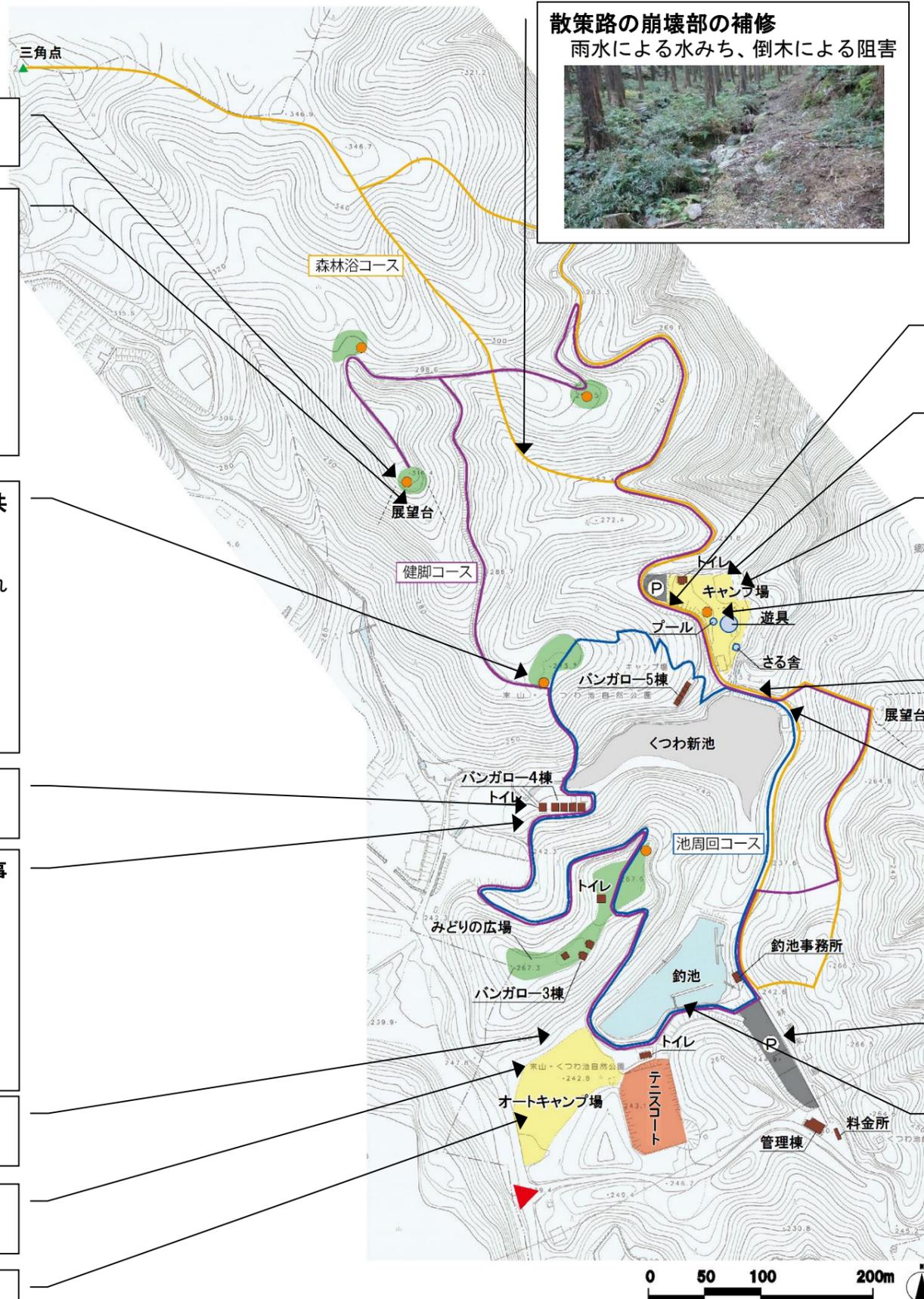


炊事施設の
老朽化

多客時に対応した広場の確保
オートキャンプ場用地の不足

オートキャンプ場の雨水排水対策
面的な排水不良※具体的状態の確認要

オートキャンプ場の芝生化
砂利や雑草による地盤



散策路の崩壊部の補修
雨水による水みち、倒木による障害

末山及びくつわ池自然公園全体での課題

施設の老朽化による魅力低下への対応
⇒既存施設の廃止や劣化による魅力・安全性・快適性の低下

園内サインの充実
⇒自生する動植物の解説板など本公園の情報提供不足

自然観察ポイントの創出
⇒公園内の魅力的なみどころ、観察ポイント不足

管理用園路への排水施設設置(全域)
園路上の雨水流出

多客時に対応した広場・駐車場の確保
キャンプ場用地の不足

キャンプ場の雨水排水対策
面的な排水不良※具体的状態の確認要

キャンプ場の芝生化
砂利や雑草による地盤

車両と歩行者の動線錯綜への対応
注意喚起等の不足

自然公園にふさわしい景観の整理
※釣池の管理形態の整理要

多客時に駐車スペースが不足
多客時の駐車スペースの不足

管理用園路の舗装化
主要管理道の整備不足

5.4 末山及びくつわ池自然公園に対するニーズ

(1) 利用者の主な目的

- 町内ではバーベキュー・キャンプ・バンガローが多いが、町外(web)ではハイキング・森林浴が多くなっている。
- くつわ池自然公園が「日本の森林浴 100 選」に選ばれていることを周辺自治体にPRするほか、自然をさらに活かすための整備や演出を進めることで、より多くの利用者が訪れる可能性があると考えられる。

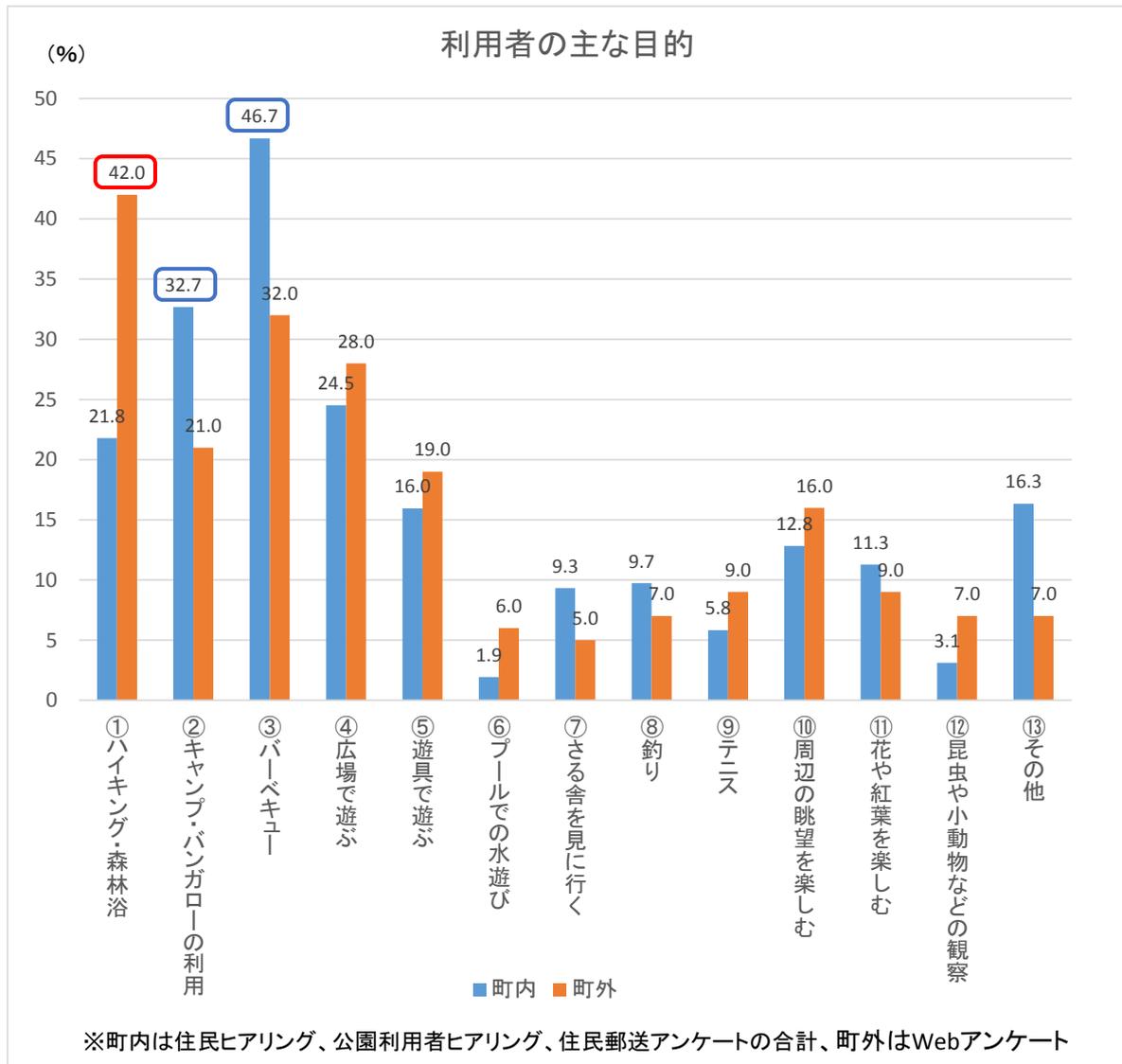


図 くつわ池自然公園へ行った目的

(2) 公園利用者の重視すべき使い方

○レジャー・アウトドアは公園として必然的な使い方であり、それ以外では、**子供の遊び場、自然の動植物等を学ぶ**、スポーツ・運動、宿泊、イベント開催が多くなっている。

○くつわ池自然公園の整備にあたっては、家族で訪れた時に、子どもが楽しみ、自然を学習できるような視点を重視することが必要と考えられる。

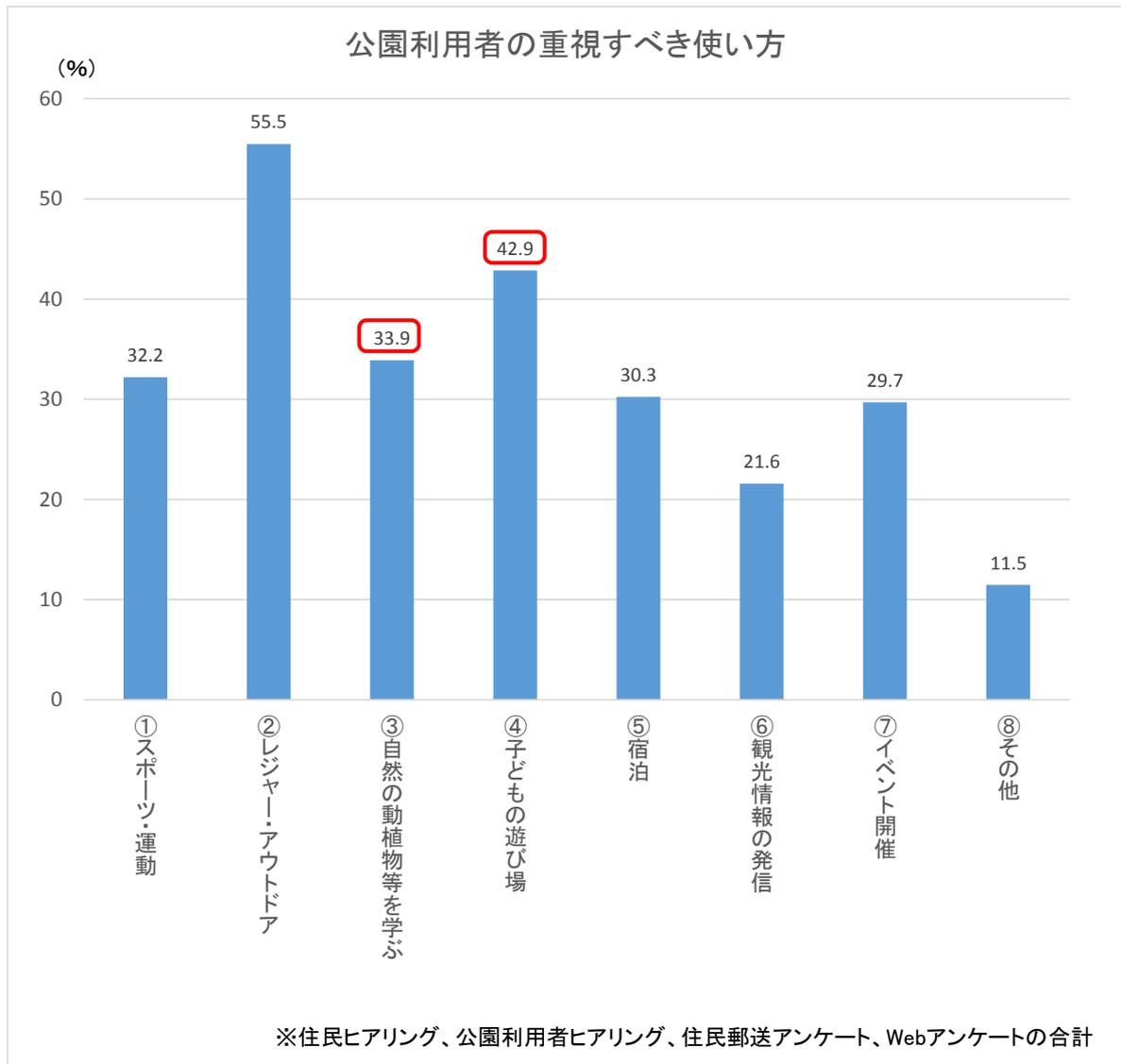


図 くつわ池自然公園の重視すべき使い方

(3) 知っているが行かない人の重視すべき使い方

- レジャー・アウトドア、子供の遊び場、スポーツ・運動、自然の動植物等を学ぶ、イベント開催が多くなっている。
- くつわ池自然公園を知っているが行かない人に対しては、家族連れでレジャー、アウトドアを楽しめる視点を重視した整備を行うことが必要と考えられる。

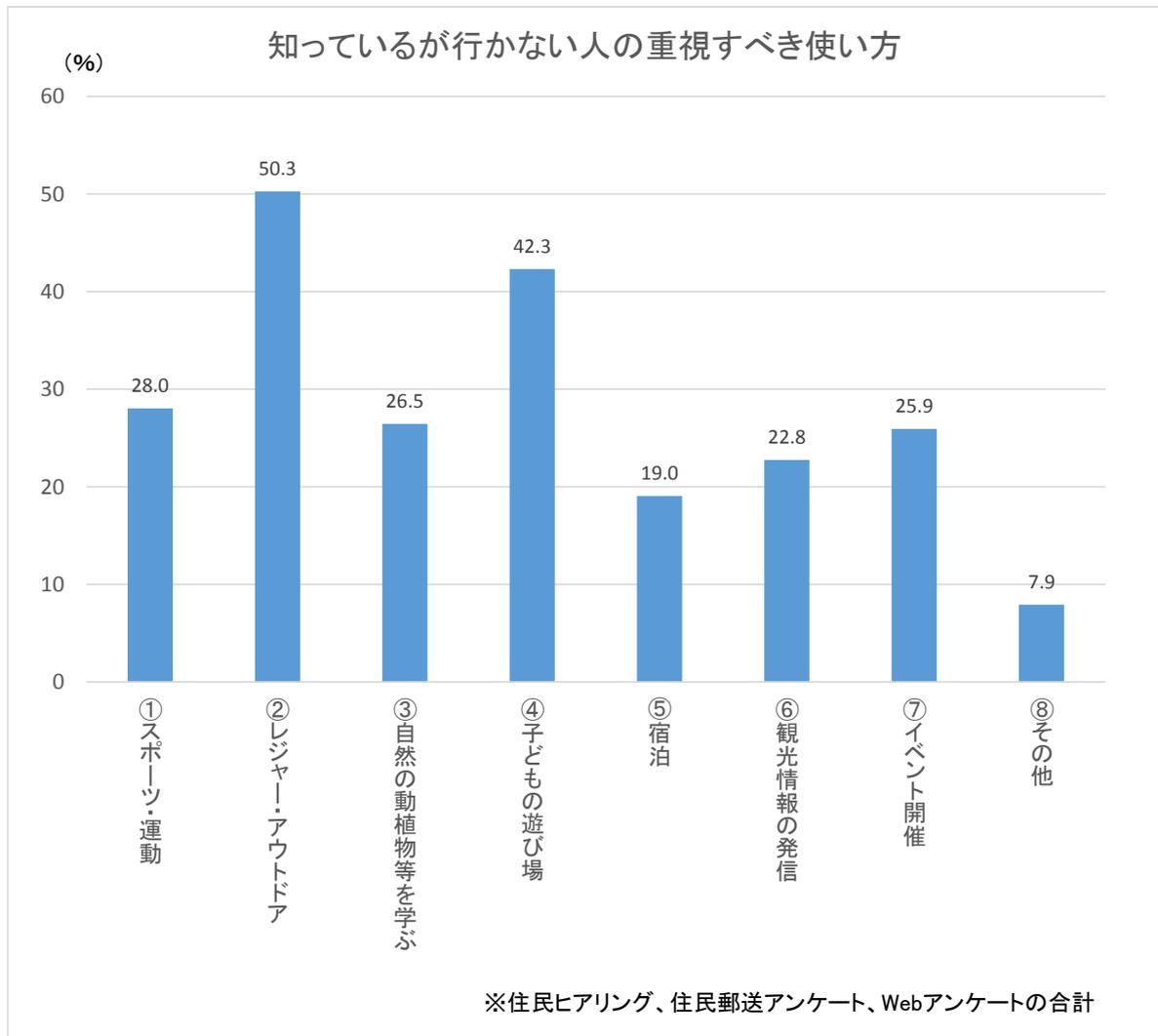


図 くつわ池自然公園の重視すべき使い方

(4) 町内で本公園に行かない理由

- 公園へ行く目的がないから、**何があるか知らない**からが多くなっている。
- 町内に住んでいるが行かない人に対しては、公園内にどのような施設があるのかをPRすることで、利用者が増加する可能性があると考えられる。

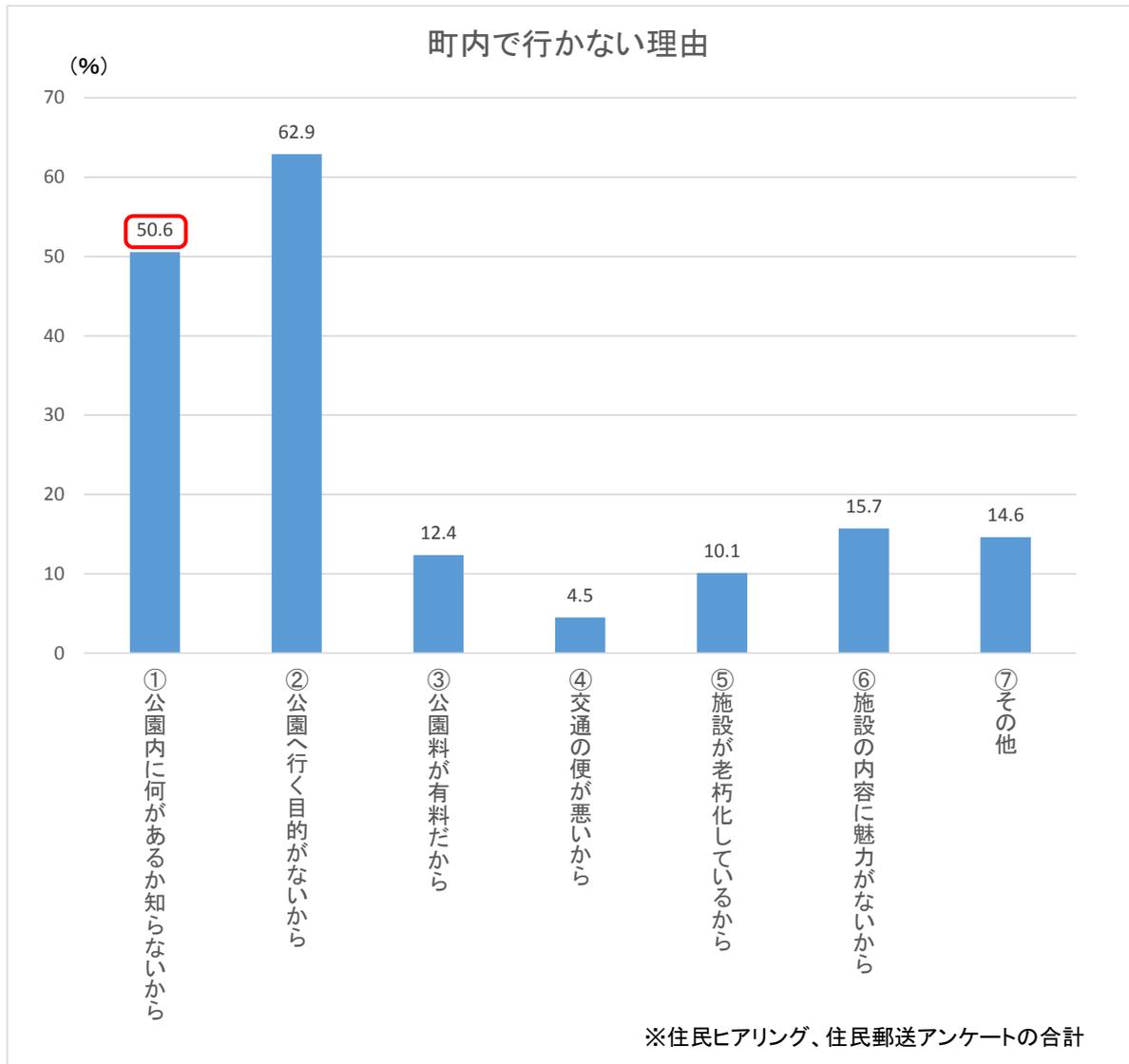


図 くつわ池自然公園へ行かない理由

(5) 町外(web)で本公園に行かない理由

- 公園に行く目的がないから、交通の便が悪いからが多くなっている。
- 町外に住んでいる人で、くつわ池自然公園に行かない人に対しては、公園内に何があるかをPRするとともに、公園までのアクセス方法をPRすることが必要と考えられる。
- 交通の便に関しては、新名神高速道路の開通により、むしろアクセスの良さが強みになると考えられる。

d.Web アンケート

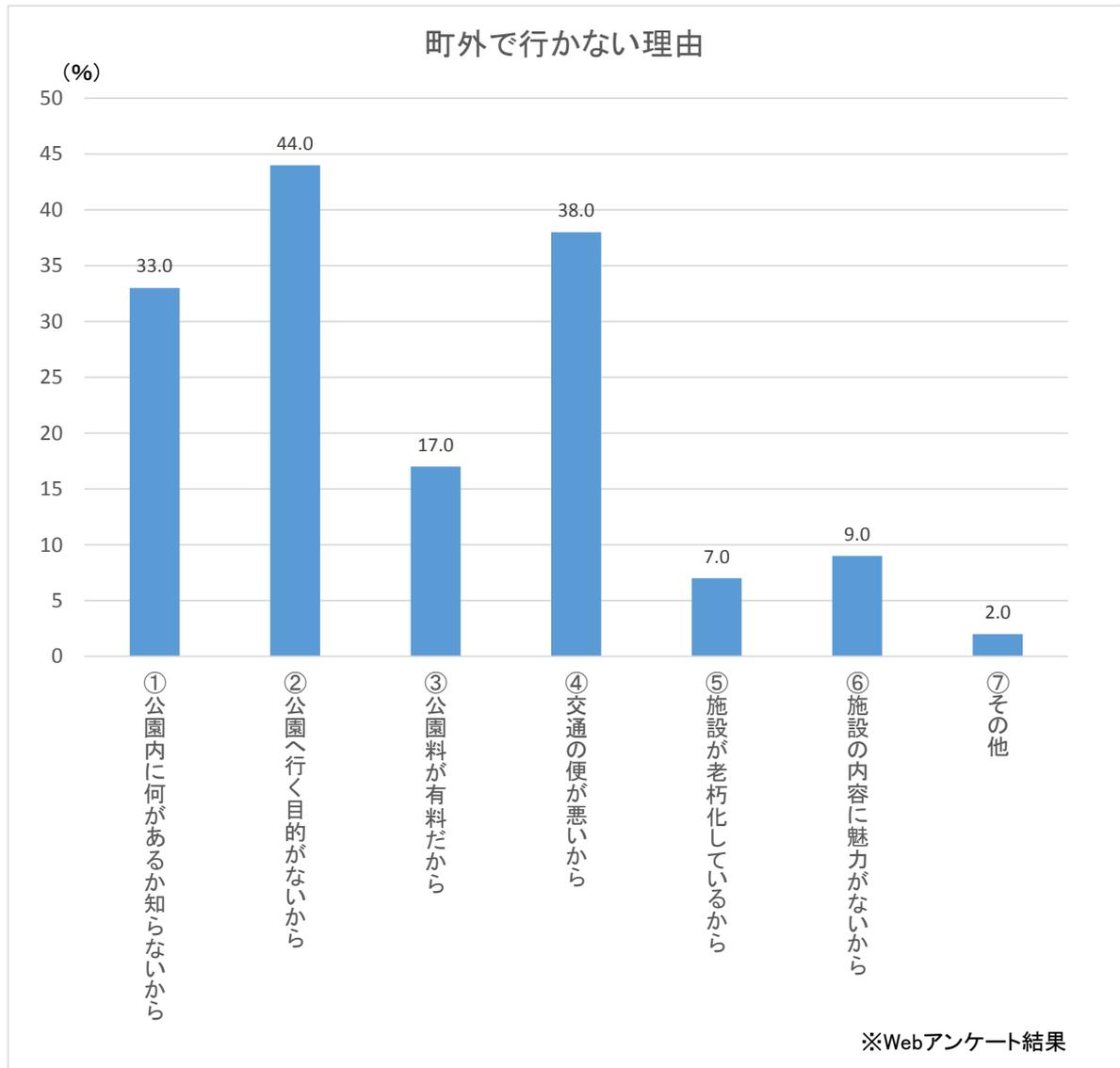


図 くつわ池自然公園へ行かない理由

5.5 社会情勢・潜在ニーズ

(1) 近年の社会情勢

- オートキャンプ白書 2016(一般社団法人 日本オートキャンプ協会)によると、グランピング等のアウトドアニーズが向上し、全国的に既存の関連施設への投資が増加している傾向にあることが報告されている。
- くつわ池自然公園の整備にあたっては、アウトドアニーズに対応した整備を行う必要があるとともに、合わせて、くつわ池自然公園の強みを活かしたサービスを行うことが求められる。

(2) 町内で本公園を知らない人が重視すべき使い方

- レジャー・アウトドアに次いで、**子供の遊び場**、スポーツ・運動が多くなっている。
- 実際の公園利用者、知っているが行かない人、知らない人に共通して、レジャー・アウトドアが最も重視され、2番目に子どもの遊び場が重視されており、くつわ池自然公園においては、“子ども同伴で家族でレジャー・アウトドアを楽しめる公園”が求められていると考えられる。

(3) 町外で本公園を知らない人が重視すべき使い方

- レジャー・アウトドアに次いで、**子供の遊び場**、**自然の動植物を学ぶ**が多くなっている。
- 町内と同様に、実際の公園利用者、知っているが行かない人、知らない人に共通して、レジャー・アウトドアが最も重視され、2番目に子どもの遊び場が重視されており、くつわ池自然公園においては、“子ども同伴で家族でレジャー・アウトドアを楽しめる公園”が求められていると考えられる。

5.6 公園管理運営に関する課題

(1) 来園者の増加にも対応した管理体制

現状でも5月の連休等の多客時には公園内に入りきれない数の来園者が訪れる。今後、アウトドアブームに加え平成35年の新名神高速道路全線開通で、現状より更に多くの来園者を迎える可能性がある。その様な状況では車両入口の進入退出時の安全管理、昼夜の園内巡回、園内での事故やケガ等への対応などこれまで以上の管理が求められると考えられる。

⇒入口、巡回、運営、維持管理等、必要となる人員確保要

(2) 時間外の管理体制

現状の管理体制では、午後4時以降翌朝の8時30分までは現地に管理人は誰もいない状況である。来園者を増やすために、新たな魅力を展開し集客を図るためには、来園者の安全性、快適性に配慮した管理運営体制が求められる。

また管理人が不在の夜間においては、料金を払わずに不正に進入し園内利用を行う事例も見られ、正規利用料を支払った施設利用者の不公平感に繋がるため是正が必要である。

⇒管理人の常駐体制、夜間及び早朝の利用者の出入制限

(3) 来園者立入りエリアの設定及び施設の安全管理

森林浴コースから外れた高低差のある崖、崩壊しかけている法面、スズメバチやマムシ等の危険生物への対応が必要である。

⇒大きな危険を伴う場所・施設の確認と対応

(4) 別途管理している釣池に関する課題

別途管理され釣池として利用されている下池の周辺では、ゴミの散乱が見受けられる。また、下池外周付近の通路沿いには釣池利用者の車両が縦列駐車されており、キャンプ場へ移動する来園者が通行しにくい状況となっている。

また夜間の池の安全対策も万全とは言えない。

⇒ゴミ対策、園路沿いへの車の駐車、池の安全管理など対策を行う必要がある。